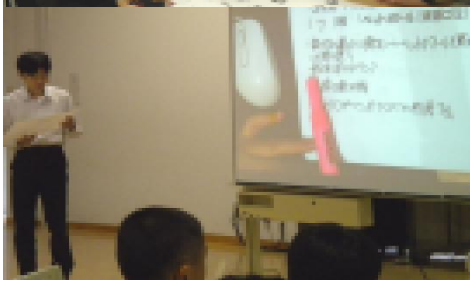
学校教育目標『 人間性を磨き　たくましく生きる生徒の育成 』

岩城中学校 校報
自主 創造
意和氣
シンキング チームワーク アクション
第32号　2026.11.13(金)

小中合同意見交換会がありました

６日(金)に「わたしたちはゴミをどのように減らしていくか？」をテーマに小中合同意見交換会を行いました。これは、小中合同ＰＴＡと岩城地域学校運営協議会がタイアップして、子どもたちが一つにテーマについて意見を交換することにより、地域について考える契機にすることを目的として、毎年行っているものです。





意見交換をするにあたり、市生活環境課から講師をお招きし、テーマに沿った内容でご講演いただきました。講演では、８月から市のゴミ袋が変更（11月から完全実施）になったことを踏まえ、「ゴミの分別によりゴミが減らせること」や「ゴミだすことで、処分のための料金が発生したり環境負荷につながること」など、ゴミの減量につなげていこうとするきっかけとなる内容のお話がありました。

この講演を受けて、中学校２年生と小学校６年生が７グループにわかれて活動を行いました。はじめに、グループごとに「ゴミ分別クイズ」に取り組み、クイズの答え合わせをしてから意見交換を行いました。２年生が司会をしながら各グループで意見をまとめました。グループでの話合いには、ＰＴＡ役員や学校運営協議会の委員の方々が加わっていただいたことで、大人目線での地域の実態を聞きながら考えを広げることができたようでした。

「ゴミの問題は、簡単なようでなかなかできていないことが多いと気付いた。できることを実践していけるようにしたい。」などの感想が発表され、ゴミの問題について真剣に考えることができた時間となりました。ご家庭でも、ゴミの問題に限らず、地域の身近な話題についてお子さんと話合い、家族や地域の一員として自覚を高めていただけると幸いです。

コミュニケーション力を育てます

６日（金）から、生徒のコミュニケーション力を高めることを主な目的としてコミュニケーション面談（２回目）を行っています。

コミュニケーション力は「話す」「聞く」「話し合う」など、単にうまく意思疎通する力というだけでなく、他の人と関係性をつくる力でもあると言えます。ある調査では、多くの企業で採用の選考にあたり、特に重視したのが「コミュニケーション力」でした。また、社会や企業が求める人材は、高校が求める人材でもあります。令和９年度入試における各高校が求める生徒像には、多くの学校で「協働」という言葉が出てきます。「協働」とは、コミュニケーションを通じて、複数人で課題に取り組むことを指していると考えられます。

また、最近はSNSの普及等によって、子どもたちの言葉遣いや日本語に影響が出ていると感じることがあります。単語でのやり取り、相手への思いやりや敬意に欠けた言葉遣いなどが増えているように思います。

学校では、適切な言葉遣いや言葉の大切さを伝えられるよう授業中の丁寧な言葉遣い、友達との会話での配慮、敬語の使い方など、様々な場面での指導を心がけています。しかし、言葉遣いの指導は学校で完結するものではありません。家庭で許されている言葉遣いを学校で指導しても子どもは混乱し、「なぜ？」と納得できないからです。子どもにとっての「当たり前の話し方」は、家庭の中で作られます。親や兄姉がどう話しているかが、そのまま子どもの言葉の基本になると考えられます。言葉遣いは家庭文化の一部であるという前提で、家族の会話（言葉遣い）を振り返っていただけると幸いです。

お知らせ

本荘由利図工・美術の学び展

期日：11月14日（土）～16日（月）
9:00～18:00　最終日は9:00～15:00
会場：カダーレ（１階ギャラリー）
１～３年生の生徒10名の作品を出展します。ぜひ、お立ち寄りください。